

## 短期語学留学を通して

薬学部 1 年 松村郁香

私にとって、今回の研修が初めての海外経験でした。しかし、私は中学生の頃から英語が苦手で、中学校で習う英語すら自信が持てないほどでした。しかし、英語がほとんど話せなかった私でも、4週間のフィリピン研修を楽しむことができ、国民性や価値観を感じ取ることができました。



今回の研修に行く前、私は大きな不安を感じていました。それは、最低限中学英語が出来ないと、留学しても時間を無駄にするだけだという、様々な人の書き込みが原因でした。そんな不安の中フィリピンに到着して、最初の2、3日は周りの人に話しかけることすら出来ず、日本人としかコミュニケーションをとっていませんでした。しかし、ルームメイトの現地の学生に会った時、初めて自分から声をかけることができました。しかし、現地の学生の英語は話すスピードが速く私は全く聞き取ることが出来ませんでした。そこで、私がまだ英語が上手くないことを伝え、相手は私が分からない単語を簡単なものに変えてくれたり、ジェスチャーを加えて話してくれたり、私に合わせて会話をしてくれました。私が話す際にも、どんなに拙い英語でも一生懸命耳を傾けて聴こうとしてくれました。この時は、相手に気を遣わ



せてしまっていることや、せっかく話をしてくれているにも関わらず全然分からないことが本当に悔しかったです。しかし、この優しさのおかげで自分から人に話しかける機会が増えました。また、国民性という面では、宗教、優しさ、時間など様々な違いを感じました。フィリピンの方に敬虔な信徒が多いということは、事前に知っていました。しかし、ボランティアでフィリピンのスラム街に清掃活動に行った際に、小さい教会があり周りの人が祈りを捧げているのを見て、どんなに貧しくても信仰心を持つ姿に衝撃を受けました。また、そのボランティアは子供とペアになって行うものだったのですが、たびたび「大丈夫ですか？」と日本語で気遣ってくれたり、飴をくれたりと子供ですら外国人に優しいこれは国民性なのだなと感じました。時間の感覚という面では、約束の時間に 30 分ほど遅れることもあり、時間に対する感覚の違いを感じました。

今後、薬剤師を目指すうえで、海外の方の対応をする機会も多くあるかと思います。その際に、価値観や国民性などを知った上で対応が出来るようこの経験を活かしていきたいと思っています。